

## 第112回役員会議事要録

日時：2019年5月22日(水)10：00～11：00

会場：大学本館E-703会議室

出席者：津田理事長、松尾副理事長、清田理事、柳井理事、龍理事、田上理事  
(オブザーバー) 中野監事、二宮副学長、中尾副学長

### 報告

- 1 「i-Design コミュニティカレッジ」の開設状況について
- 2 「enPiT-everi 社会人リカレント教育プログラム」の開設状況について
- 3 2019年3月卒業生の進路状況について
- 4 教員の昇任選考について
- 5 名誉教授の称号授与について
- 6 内部監査の実施について

#### 報告1 「i-Design コミュニティカレッジ」の開設状況について

<質疑応答>

[理事長]

○参加者は個人で参加しているのか、法人、企業を通じてなのか。

[副学長]

○ほとんど個人で参加されている。

[理事長]

○PR方法はこういったことをしたのか。市政だよりか。

[副学長]

○市政だよりが、1番アプローチできたと感じている。その他にも交通広告、コミュニティFM、市民センターなどに事務局長をはじめ職員が直接説明に伺った。

#### 報告2 「enPiT-everi 社会人リカレント教育プログラム」の開設状況について

<意見>

[理事]

○このコースを受けるには、どのくらいの時間の制約を受けるのか

[理事]

○半期で120時間である。半期で修了する。

[理事]

○それでは、個人参加という場合でも、法人の理解を得てからの参加になるか。

[理事]

○文部科学省の履修証明プログラムに120時間以上だったが、今年度の4月以降は60時間以上になる。今の時間数はハードルが高くて、120時間内に実習もある。実習は土曜に6時間大学に6週も来ないといけないこともあり、負荷が大きいと考えていて、時間を短くして履修証明プログラムを出すことも検討している。

[理事長]

○スマートファクトリーコースAは、リカレント教育ということで国も行っているのだろうが、企業としては新人教育としての方が活用しやすい。地元の中小企業が、新人社員教育として取り組んだらいいと思う。仕事に就く前に時間を取らせる等、実習期間に行う。企業で教育までする余裕があるかどうかは課題ではあるが役に立つはずだ。

[理事]

○キャリア形成や研修として使っていただきたい。

[理事長]

○今後、宣伝する場所を少し考えた方がいい。

[理事]

○福岡、北九州の中小企業や、宮崎、熊本、広島等の連携大学でもPRしていて、商工会議所を通して宣伝している。

[理事長]

○福岡県工業技術センターの集まりがやる気のある方が集まっているので、どういうものを作るかといった少しモノに偏っているが、そういうさまざまな会合で発信していこう。

[理事]

○情報は、ホームページで授業シラバス等、詳細資料を掲載している。

[監事]

○パイロット2018からパイロット2019で人数が減っているが、2018受講者が次を申し込まなかった理由は把握しているのか。

[理事]

○1つのコースが修了して、次のコースを継続して受けるという内容のものではなかった。ただ、評価等は分析していかないといけない。

[理事長]

○パイロット2019は有償とあるが、2018はどうなのか。

[理事]

○無償である。そういったところも影響しているかもしれない。

### 報告3 2019年3月卒業生の進路状況について

<質疑応答>

[理事長]

○市内就職率の目標は、30%を超えていたと思うが...

[理事]

○目標値は32%です。市内就職者数は増えているが、全体の就職者数も増えていて、率になると難しい。COC+事業についていえば、目標値を達成しているところは全国的にない。北九州市もそのことは理解してくれている。実数だけでもきちんと増やしていきたいと考えている。

[理事長]

○北九州市のエリアは、京築などの北九州地方ではないのか。

[理事]

○北九州市と下関市がCOC+事業の域内になるので、北九州市内のみである。

### 報告4 教員の昇任選考について

<質疑応答>

[理事]

○定数はあるのか。昇任する資格などは、ふさわしいということで昇任するのか。

[事務]

○職位、資格としての定数はない。

### 報告5 名誉教授の称号授与について

<質疑応答>

[理事]

○名誉教授になるのは、15年経過すれば、現役中でもなれるのか。退任される何年前とかいつからとか決まっているのか。

[副理事長]

○ご退職になられてからである。教授職がなくなるタイミングで名誉教授の称号を授与している。

## 報告6 内部監査の実施について

<質疑応答>

[監事]

○3/26～3/28に監事監査を行った。28年度に研究費不正があったので、通常の監査に加えて、そちらも監査を実施した。対策を実施されているので、きちんと実施されているかを監査した。また、内部監査で抽出した監査、補充的な部分を監査したが特段の異常は認められなかった。リスクアプローチ監査で立替払いの問題があったが、こちらは監査法人の指摘により調査中である。

[理事]

○リスクアプローチ監査で分割発注は学生に組み立てさせるという理由があったが、今後良しとされるのか、良しとされないのか、同一目的であればグロスで何かしらの承認をいただいてというのが普通だと思うが、分割は基本的には望ましくないのではないか。

[副学長]

○分割発注は望ましくないし、今後はないようにしたい。事務局で把握するのは難しいので、教員に望ましくないと伝えていく。陥りやすい例などを含めて、きちんと周知徹底していく。